



# 総合教育センターだより

**Be Connected**

平成21年12月16日（水）

第9号（通算第92号）

京都府総合教育センター

TEL 075-612-3266



## 「学校組織マネジメント」特別講座シリーズⅣ

研修講座「『学校組織マネジメント』特別講座シリーズⅣ」（11月19日）をシリーズ最終回として実施しました。学校組織マネジメント論の第一人者である名城大学大学院教授の木岡一明氏を招き、ご講義いただきました。

同講座の過去の受講者によるパネルディスカッションでは、研修後の意識の変化や日々の実践での工夫について活発な意見のやりとりが行われました。



### 講座のねらい

京都府の現状と課題について認識を深め、学校内外との連携による学校組織の活性化を図るため、企業等や学校組織マネジメントの考え方、手法を特色ある学校づくりに積極的に生かす人材を育成することを目的としています。



### 学校を元気にする組織開発の視点と方法

#### 木岡教授の講義から

- 学校における組織マネジメントとは、学校毎の教育目標の達成に向け、教職員が「コミュニケーション」を通じて、「分業・協働」し、組織を活性化させることである。また、組織として、変化する環境に対応していくことが重要である。
- 組織の活性化を図る上では、個々の教職員が日々の職務を効果的・効率的に遂行し、それぞれに持ち味を発揮し、相互にかみ合わせながら、戦略の共通理解を図り、地域とのネットワークをつなげていくことが重要である。
- それぞれの学校が、ビジョンを持ち、コミュニケーションを活性化させながら、個々のパワー（能力や意欲）を高め、チームとしての総合力を発揮していくことが学校組織の活性化につながっていく。
- 学校を改革しようとするとき、試行錯誤を大切にし、気づいた人が、少しのことから始め、人々と関わり合う中でうずをつくり、その中に招き入れることである。そのためには、まず自らが動くことである。



### パネルディスカッションでの発言から



- ◆ 学校を内と外から分析する手法が一番印象深い。学校の現状分析や将来構想に役立て、学校を外側からの目で考えられるようになった。
  - ◆ 本講座で学んだ、経営感覚や戦略思考は、管理職としてふとした場面で思い出し、日常の教育活動に生かしている。
  - ◆ 小さなグループづくりから始め、信頼を築き、少しずつ広げ協働していくようにしている。
- ◆ プラス思考で、気付きと振り返りを繰り返しながら自らの行動を変容させている。





## シリーズ

# 「気付けば変わる 子どもの行動」Ⅱ

～「自閉症のある子どもへの支援ガイドブック」から～

action

「気付けば変わる 子どもの行動」をテーマに、今回のシリーズⅡでは、子どもの行動をどのようにとらえれば、適切な対応や効果的な支援ができるのかを考えます。



Q 行動の意味を理解したつもりでも、いざ問題行動が起きるとその対応に追われ、どうすれば行動の改善ができるのか、有効な支援がわかりません。

A

発想の転換が大切です。正しく行動できた中にこそ支援のヒントがあります。

問題行動にだけ着目しても、支援の方策が立てられないことが少なくありません。その場合、視点を変えて、正しい行動ができていたときのことを考えてみましょう。

たとえば、授業中に頻繁に立ち歩く（離席する）行動について考えると、時々でも座って授業に集中できる時があるなら、その条件を考えてみることです。下記にその例を示します。

〈例〉

いつもの様子(離席行動)	時々見せる様子(着席行動)	そこから考えられる支援の方法
● その子どもにとって、興味が長続きしにくい内容だった。	● 興味がある内容だった。	● 興味を引く内容を入れて授業にメリハリをつける。
● その子どもにとって、何をするのかわかりにくかった。	● 何をするかわかりやすかった。	● これからどんなことをするか、いつ終わるかを明確にする。具体物や完成見本を提示する。
● 板書の書き写しに大きなエネルギーが必要で続かなかった。	● 苦手な板書の書き写しがなかった。	● 板書ではなく、ワークシート方式にする。

- たまに着席して学習に集中できた時、ともすれば偶然で済ましがちですが、着席できた条件の中に支援のヒントが含まれているのです。
- 支援は、行動の改善の度合いによって見直すことが必要です。適切な見直しをされず、長期間固定化された支援はやがて別の弊害をもたらします。



※「自閉症のある子どもへの支援ガイドブック」  
P. 20「何言っているの？」をご覧ください。



～お知らせ～ 「陶芸作品特別展示」是非、ご覧下さい！

初任者研修「体験研修」講座で、初任者が京都伝統工芸大学で制作した陶芸作品です。本センター2階カリキュラムルームにて、1月14日まで展示しています。



～センターからの一言～

何を学ぶのか。いかに学ぶのか。そして、何のために学ぶのか。  
“情熱”を燃え上がらせ、“誠実”を貫き通す人でありたい。

